

副産物情勢

3月14日 更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項 目	内 容	備 考
内 臓	1.国産牛	○ 1月の成牛と畜頭数は、86.1千頭(前年比101.1%)と前年を上回った。 内訳を見ると、和牛：41.6千頭(前年比105.9%)、交雑牛：20.5千頭(同102.7%)、乳牛去勢：9.1千頭(同89.3%)となった。 ○ 2月の成牛と畜頭数は、速報値(2月28日まで集計)で80.5千頭(前年比96.0%)と前年を下回る見込みとなった。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(2月26日公表)によると、2月、3月の出荷頭数は、交雑種が増加するものの、和牛および乳用種の減少が見込まれることから前年同月を下回ると予測する。(2月 78.5千頭(前年比93.1%)、3月 87.0千頭(同96.6%)) 3か月平均(1月～3月)では、出荷頭数82.7千頭(前年比95.5%)、生産量26.3千ト(同95.2%)と前年を下回る予測となっている。 ○ 需 給 動 向：赤物はレバーが不要期であることから荷動きが低調に推移しており、テールも一部地域では余剰感がある。一方でタン・ホホ等の通年商材については引き合いが継続している。 白物は需要期である小腸は期待ほどの荷動きがなく、在庫整理の動きが目立っている。シマ腸の余剰感も強まっているが、一方で煮込み商材であるアキレスやメンブレンの荷動きは堅調。
	2.国産豚	○ 1月の全国豚と畜頭数は、1,404千頭と前年並みとなった。(前年比99.3%)。 地域別と畜頭数(数値は前年同月比)：北海道106.2%、東北96.2%、関東98.6%、北陸甲信越97.4%、東海101.2%、近畿100.3%、中四国104.5%、九州・沖縄98.7% ○ 2月の全国と畜頭数は、1,283千頭(速報値2月28日まで集計、前年比93.4%)と前年を下回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年より1日少なく、1日当たりの平均と畜頭数は71,300頭(前年実績：72,350頭/日、前年差▲1,050頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課；2月21日付け)によると、3月；1,457千頭(前年比106%)、4月；1,403千頭(同100%)、5月；1,342千頭(同99%)、6月：1,307千頭(同110%)、7月：1,303千頭(同99%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約103%と前年を上回る見込み。 ○ 需 給 動 向：3月の出荷頭数が前年を上回ると予想されることから、発生量は堅調に推移し、需給は緩和して推移すると見込まれる。 赤物は、冷蔵品の荷動きは全部位を通して概ね堅調。冷凍品もカンラ肉を中心に引き合いが継続している。 白物は、小腸ボイル・大腸ボイルが例年に比べ荷動きは多くないものの、ガソ、直腸の需要は引き続き堅調で推移。
	3.輸入牛	○ 1月の輸入通関実績は、全体で32.6千トと前年を下回った(前年比75.3%、前月比83.0%)。 内訳ではチルド：13.4千トン(前年比78.8%、前月比83.6%)、フローズン：19.2千ト(前年比73.0%、前月比82.7%)となった。 輸入相手国別では、チルドはニュージーランド、カナダが増加し、フローズンは、主要国全てで減少した。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、現地価格の高止まりを受けて低調に推移する中、チルドは、2月は前年同月の輸入量が少なかった事等から前年同月を上回る、3月は主要国を含むほとんどの輸入先からの減少が見込まれる事等から下回ると予測する。フローズンは、2月は主要国のうち豪州を除くほとんどの輸入先から、3月はほとんどの輸入先からの減少が見込まれる事から、2月、3月ともに下回ると予測する。3か月平均でも、チルド、フローズンともに下回ると見込んでいる。 令和7年2月 合計：31.1千ト(前年比100.3%)、チルド：13.9千ト(同111.2%)、フローズン：17.2千ト(同93.0%) 令和7年3月 合計：31.0千ト(前年比80.8%)、チルド：14.4千ト(同79.3%)、フローズン：16.6千ト(同82.2%) ○ 輸入牛内臓実績(令和7年1月)：牛腸(冷凍)：1,257.1ト(前年比99.1%・前月比90.1%) 国別実績；米国959.4ト、メキシコ175.2ト、豪州93.3ト、カナダ22.7ト、他牛レバー(冷凍)：77.8ト(前年比141.8%・前月比169.2%) 国別実績；米国47.6ト、豪州30.1ト
原 皮	1.牛原皮	○ 輸 出 実 績 (令 和 7 年 1 月)：39,395枚(前年比88.8%、前月比65.8%) 国別実績；タイ33,440枚(前年比105.2%)、韓国5,355枚(同87.9%)、インド600枚(同34.5%) 輸 出 平 均 価 格 (令 和 7 年 1 月)：2,749/枚(前年差+232円、前月差△70円) ○ 輸 入 実 績 (令 和 7 年 1 月)：牛大判皮34,137枚(前年比112.1%、前月比131.8%)、ウェットブルー11,508枚※(同81.2%、同76.3%) ※4.4㎡/枚で計算 輸 入 平 均 価 格 (令 和 7 年 1 月)：牛大判皮7,906円/枚(前年差△291円、前月差+747円)、ウェットブルー9,582円/枚(同+218円、同+684円) ○ 海 外 情 勢：11～12月は前年・前月を上回る輸出枚数であったが、1月は前年・前月を下回った。情勢に特段の変化は見られない。 ○ 国 内 情 勢：ホルス去勢以外の引き合いは弱い。低価格での流通が続いている。
	2.豚原皮	○ 輸 出 実 績 (令 和 7 年 1 月)：956,260枚(前年比102.6%、前月比87.0%) 国別実績；タイ724,240枚(前年比105.6%)、カンボジア119,300枚(同103.3%)、ベトナム84,300枚(同68.5%)、韓国28,420枚(同394.7%) 輸 出 平 均 価 格 (令 和 7 年 1 月)：361円/枚(前年差+23円、前月差+13円) ○ 需 給 動 向：昨年9月以降下落していたが、底値は脱しわずかながら上昇している。しかし海外タンナーの在庫過多の状況は解消されていない。 今後も大きく上昇する要因は乏しく、価格は低位で推移する見込み。
レンダリング	1.油脂等	○ 国産食用加工油脂向け価格(3月渡し)：牛脂155円/kg(前年差+10円、前月差±0円)、豚脂155円/kg(同±0円、同±0円) 牛脂は、カレールック向けと石鹼向けの需要が底堅いことに加え、輸入から国産への切替えが進んでいることから荷動きは堅調に推移している。 豚脂は、肉豚の生産コスト高により出荷日齢が早期化傾向にあることから発生量が抑えられている。ラーメン店向けの出荷も堅調であり、需給は引き締め傾向。 ○ マレーシア産パーム油相場(2月)：221円/kg(前年差+59円、前月差+20円) 1月生産量は123万トン(前月比83.2%)、輸出量は116万トン(同87.1%)、月末在庫は157万トン(同92.5%)となった。 生産量が減産期であることに加え、バイオ燃料の需要が依然堅調であることから、今後も底堅い相場推移を見込む。 ○ 関 東 飼 料 用 油 脂 (2 月)：114円/kg(前年差△10円、前月差±0円) ○ 工 業 用 油 脂 (2 月)：95円/kg(前年差±0円、前月差±0円) ○ UCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格(2月)：123円～126円/kg程度(前年差±0円、前月差±0円)

1.東京市場内臓価格			単位：円/枝肉kg
価格改定年月日	牛内臓	豚内臓	
令和3年4月 26日	25	5	
令和3年10月 18日	35	7	
令和4年2月 7日	25	5	
令和4年4月 4日	35	7	
令和4年8月 8日	45	9	
令和6年12月 2日	48	9	

※乳牛45円/kg ※豚正貫物

2.大阪市場内臓価格			単位：円/枝肉kg
価格改定年月日	牛内臓	豚内臓	
令和3年4月 19日	25	3	
令和3年10月 15日	35	4	
令和4年2月 1日	25	4	
令和4年3月 28日	35	4	
令和4年8月 1日	45	5	
令和6年12月 2日	48	5	

3.東京市場原皮価格			※交雑牛含む	単位：円/枚
価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮		
令和元年7月22日	700	10		
令和2年3月16日	500	10		
令和2年6月15日	100	10		
令和2年7月20日	100	2		
令和2年9月28日	10	2		
令和3年5月24日	10	10		
令和5年10月16日	10	2		

4.大阪市場原皮価格			※交雑牛含む	単位：円/枚
価格改定年月日	牛原皮(和ヌキ)	豚原皮		
令和元年8月15日	1,000	10		
令和2年3月16日	800	10		
令和2年6月22日	300	10		
令和2年7月27日	300	2		
令和2年9月28日	10	2		
令和3年6月 1日	10	10		
令和5年10月23日	10	2		

5.食用加工油脂価格			単位：円/kg
価格改定年月日	牛脂	豚脂	
令和4年7月 1日	195	190	
令和5年1月 1日	175	175	
令和5年4月 1日	165	175	
令和5年7月 1日	155	165	
令和5年10月 1日	145	155	
令和6年7月 1日	145	145	
令和7年2月 1日	155	155	